

京都府幼児教育センターについて

- ◆京都府の幼児教育推進の拠点として、京都府教育庁学校教育課、文化生活部文教課、健康福祉部こども・子育て総合支援室が一体となり、令和2年4月に開設しました。
- ◆府内の幼児教育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）において、質の高い教育・保育を実施することができるよう、また円滑な幼小接続を図ることができるよう、各種事業を推進しています。



SECOND STAGE の目指す姿（令和7～10年度）

～「つながり」と「広がり」の視点で一体的に幼児教育を推進～

- ◆幼児教育の質の向上に向けた教育・保育を支援するとともに、幼児教育で育んだ資質・能力を「架け橋期のカリキュラム」などを通して小学校の学びへつなぐことを支援します。
- ◆市町村が地域の実情に応じた指導助言の実施や、円滑な幼小接続を主体的に推進することができるよう、市町村同士が「つながり」、優れた取組を幅広く共有できるネットワーク構築を推進します。

幼児教育の質の向上や幼小の円滑な接続のため 幼児教育施設・小学校・市町村の主体的な取組を支援します

助言・支援

架け橋期コーディネーターが、市町村の幼児教育担当者とともに公私立の幼児教育施設及び小学校を訪問し、保育・授業参観等を通して、各園校の実態に応じた助言や、実効性のある架け橋期のカリキュラムの作成を支援します。

研修

市町村などが主催する研修会で、架け橋期コーディネーターが講演・助言等を行います。

研究

幼児期の遊びを通して育んだ資質・能力を小学校教育の学びにつなぐ実践事業を実施し、研究成果の普及を図ります。

情報発信

市町村のネットワークづくりに向けて、幼児教育に関する国の動向や研究成果、公開保育に関する情報などを発信します。

幼児教育に関する情報

京都府幼児教育センターホームページ

架け橋期コーディネーターの派遣に関する情報や、保育者向け研修情報など役立つ情報を掲載しています。



お問い合わせ先

京都府幼児教育センター（京都府教育庁指導部 学校教育課内）

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入数ノ内町（第3号館）

電話：075-414-5672 FAX：075-414-5837



幼児教育の質を高め、小学校の学びにつなぐ 京都府 幼児教育センター



幼児教育の 質の向上のために

育ち合う
人的環境



発達を促す
環境の構成



信頼感のある
人的環境



家庭や
地域との
関係づくり



主体性を育む
教育・保育

幼児理解からの
出発

魅力ある
物的環境



保育の質を
高める研修



省察と
対話的な
振り返り



専門性の向上

緊密な連携・協働



幼児教育 育ちと学びをつなぐために

～ 幼児期に耕された資質・能力を基盤としてその後の成長へ～

小学校教育



遊びを通して
生きる力の
基礎を培う

- ・知識及び技能の基礎
- ・思考力・判断力・表現力の基礎
- ・学びに向かう力・人間性

小学校以降の生活や学習



幼児教育を通して育まれた資質・能力

- ・知識及び技能
- ・思考力・判断力・表現力
- ・学びに向かう力・人間性

学習を通して
生きる力を育む

学びの芽生え

方向目標

経験
カリキュラム

5領域
(健康・人間関係・環境・言葉・表現)
を総合的に展開

人と人をつなぐ

保育者・教師の
交流・研修

- ・保育・授業参観と事後の協議、日常的な情報交換
- ・合同学習等に関する事前打ち合わせや振り返り
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して行う合同の研修会

幼児と児童の
交流

- ・おもちゃづくりや学校探検等の生活科の合同学習
- ・児童が園で行う絵本の読み聞かせや共同の栽培活動
- ・運動会や学習発表会等の学校行事への参加や避難訓練等の合同行事

カリキュラムをつなぐ

幼児期の全体的な
計画から架け橋期
のカリキュラムへ

- ・園と小学校とが相互の育てたい子ども像を合同で検討
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、生活科を中心に合科的・関連的な指導を行う架け橋期のカリキュラムを協働して作成
- ・要録【幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・幼保連携型認定こども園園児指導要録】の内容共有と、子どもの実態に応じた架け橋期のカリキュラムの見直し・修正

自覚的な学び

到達目標

教科
カリキュラム

各教科等の学習内容
を系統的に学ぶ

幼稚園・保育所・認定こども園

架 け 橋 期

(5歳児 ・ 小学校1年生)

小 学 校

遊びの中に見られる学びの芽

幼児期の教育は遊びを通じた学びです。
遊びの中にどのような学びがあるかを知ることが大切です。

「はなびたいかい」の遊びの中で

楽しかった夏祭りから発想を得て、年長児のみんなは「はなびたいかい」を計画。釣りや食べ物のコーナー遊びに園のみんなを招待した後、花火が打ち上がりしました。

遊びの中の学び

花火の出し方、音、タイミングなどを相談し、試行錯誤しながら遊びを盛り上げます。思いや考えを伝え合い、表現するなど「思考力・判断力・表現力の基礎」が育っています。

しりとり遊びの中で

降園前のひと時「りんご」「ごりら」「らっぱ」「ばせり」…思いついた言葉をつなげ、しりとりをしています。最後はみんなで一緒に読み合って、言葉のリズムも楽しみます。

遊びの中の学び

知っている言葉を伝え、つなぐ楽しさを味わいながら、語句の量を増やし、文字にも関心をもちます。できたりとりを友達と一緒に読むことで、一体感を味わっています。

資質・能力が育まれている
幼児の具体的な姿として、

幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿(10の姿)

- ・健康な心と体
- ・自立心
- ・協同性
- ・道徳性・規範意識の芽生え
- ・社会生活との関わり
- ・思考力の芽生え
- ・自然との関わり・生命尊重
- ・数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚
- ・言葉による伝え合い
- ・豊かな感性と表現

【実践】R5.6幼児教育と小学校教育の
カリキュラムコンサルテーション事業
推進校発表動画

宇治市立
南部小学校



福知山市立
昭和小学校



幼児教育の連続性を意識したカリキュラム

遊びと学びの「つながり」を意識した授業改善に取り組むことで、
「主体的・対話的で深い学び」を実現します。

合科的・関連的な授業（スタートカリキュラム）



「今何人?」「4人!」「次は8人になるで!」
慣れ親しんだじゃんけん列車の遊びの中で、担任の数を意識した言葉かけが子どもの気付きを引き出します。

幼児期の育ちとのつながり

秋になると多くの園で行う芋掘り。「長いつるだね」「どっちが大きい?」「5個あったよ」など、生活や遊びの中で数量の感覚が身に付いています。

幼児教育とのつながり（生活科）



「どうやったら車がよく走るかな」グループのめあてに向かって話し合います。「坂道走ろう!」「そっち持って」と相談しながら角度や長さを調整します。

幼児期の育ちとのつながり

個々の興味関心から遊びが始まりクラス全体の取組になっていきます。グループの中で「景品作るね」「看板は私が書くよ」など協力する楽しさや大切さを感じ成長しています。